

次の **I** の問題は新課程の歴史総合の問題です。「世界史(新)」の受験者が解答してください。(解答番号は **1** ～ **7**)

I 下の1～7の記述は、19世紀から20世紀における列強の帝国主義について述べたものである。それぞれの記述中の **A** ～ **G** にあてはまる語句を、次の解答群から選べ。(28点)

<解答群>

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| ① アフガニスタン | ② エジプト | ③ エチオピア |
| ④ オーストラリア | ⑤ グアム | ⑥ コンゴ |
| ⑦ チュニジア | ⑧ ニュージーランド | ⑨ モロッコ |
| ⑩ リベリア | | |

1 **1**

イギリスは、1880年代初頭、**A** を事実上の保護国とした。さらにスーダンを征服し、1899年には、ブール人との間で南アフリカ戦争をおこし、彼らの国を併合した。また、イギリスは、アフリカ大陸を南北に縦断する政策をとり、アフリカ南端のケープタウン、北岸のカイロ、インド植民地のカルカッタを結びつけることをめざした。

2 **2**

フランスは、アルジェリアを拠点にして、1881年、東側の **B** を保護国化した。さらに、砂漠地帯をおさえ、そこからアフリカを東西に横断する政策をとり、ジブチとマダガスカルとの連結をめざした。

3 **3**

ドイツは、ヨーロッパ列強のなかでアフリカ進出に出遅れ、沿岸部の地域をいくつか獲得するにとどまった。また、イタリアは、1896年、**C** を獲得しようとしたが、撃退された。

4

4

イギリスは、19世紀前半、を植民地とし、先住民マオリの土地を武力で奪った。

5

5

アメリカ合衆国は、1898年のアメリカ＝スペイン(米西)戦争の勝利によって、フィリピンとを獲得した。また、ハワイ王国は独立国であったが、入植者により転覆され、1898年、アメリカに併合された。

6

6

ドイツのビスマルクが、1884～85年に開催したベルリン＝会議は、をベルギーの実質的な植民地として承認し、それとともに、アフリカを植民地化する際の実効支配の原則を定めた。

7

7

19世紀のイギリスは、孤立外交政策をとってきたが、帝国主義のもとで列強間の競争が激化したことにより、政策を転換した。まず、1902年、日本と日英同盟を結び、次に、1904年、フランスと英仏協商を結んだ。更に、1907年、ロシアと英露協商を結び、イランを両国の勢力圏に分割し、を自国の勢力圏とした。

次の **Ⅱ** の問題は旧課程の世界史の問題です。「世界史(旧)」の受験者が解答してください。(解答番号は **8** ～ **14**)

Ⅱ 下のA～Gは、いずれもイスラーム世界に関する見出しと、その説明となる記述1～4から成り立っており、記述には下線部が含まれている。それらの下線部のうち、1か所ないし2か所は史実として誤りである。誤りを含む記述の組み合わせを、次の解答群から選べ。なお、1～4の文は、一連の内容を分割記述したものである。(28点)

<解答群>

- ① 1のみ ② 2のみ ③ 3のみ ④ 4のみ ⑤ 1と2
⑥ 1と3 ⑦ 1と4 ⑧ 2と3 ⑨ 2と4 ⑩ 3と4

A イスラーム教の誕生

8

- 1 メッカのクライシュ族ハーシム家出身のムハンマドは、610年頃、アッラーの言葉を預けられたメシアであると自覚し、厳格な一神教であるイスラーム教を唱えた。
- 2 彼は、メッカの大商人による富の独占を批判したため、彼らから迫害を受けたが、これを避けるため、620年、少数の信者をひきいてメディナに移住した。これをヒジュラという。そして、この地にイスラーム教徒(ムスリム)の共同体(ウンマ)を建設した。
- 3 彼は、630年、メッカを無血のうちに征服し、多神教信仰の中心であったカーバ神殿をイスラーム教の聖殿に定めた。
- 4 イスラーム教の経典である『コーラン(クルアーン)』は、ムハンマドがアッラーからさずけられた啓示の記録であり、アラビア語で著されている。

B イスラーム世界の成立

9

- 1 ムハンマドの死後、イスラーム教徒は共同体の指導者として、選挙制によってアリーを初代正統カリフに選出した。
- 2 イスラーム教徒は、カリフの指導のもと異教徒に対して大規模な戦いを開始した。これをジハード(聖戦)という。第2代正統カリフの時代には、ビザンツ帝国からシリア・エジプトを奪い、642年、ニハーヴァンドの戦いでササン朝を破った。そして、多くのアラブ人イスラーム教徒が家族を伴って征服地に移住し、軍営都市を建設した。
- 3 シリア総督のムアーウイヤは、第4代正統カリフと戦っていたが、彼が暗殺されたのちにカリフ位を宣言して、661年、ダマスクスにウマイヤ朝をひらいた。
- 4 ウマイヤ朝は、西北インドからアフリカ北岸・イベリア半島にいたる領域を支配する大帝国を樹立した。その後、しばしばイベリア半島からフランク王国に侵入したが、732年、トゥール・ポワティエ間の戦いで大敗し、ピレネー山脈の南に退いた。

C イスラーム帝国

10

- 1 アッバース家のアブー＝アル＝アッバースは、750年、ウマイヤ朝を倒し、アッバース朝をひらいた。
- 2 アッバース朝第2代カリフのマンスールは、762年、ティグリス川中流に円形の首都イェルサレムを造営した。
- 3 彼は、行政機構を整備して中央集権体制の確立をはかった。こうして、アラブ人の徴税面での特権は失われていき、イスラーム教徒間の平等が実現した。たとえば、アラブ人でも征服地に土地を持つ場合は、ハラージュが課せられた。
- 4 カリフの政治は、イスラーム法にもとづいて実施されるようになった。

D イスラーム帝国の分裂

11

- 1 アッバース朝の建国後、ウマイヤ朝の一族は、756年、イベリア半島にグラナダを首都とする後ウマイヤ朝をたてた。
- 2 アッバース朝は、ハールーン=アッラシードの治世中に最盛期をむかえた。しかし、彼の没後は、エジプトにはトゥールーン朝が、イランにはサーマーン朝が成立するなど、カリフの主権の及ぶ範囲は次第に縮小していった。
- 3 北アフリカにおこったファーティマ朝は、969年、エジプトを征服して、首都カイロを造営した。
- 4 この王朝は、はじめからカリフの称号をもちいてアッバース朝の権威に対抗した。また、後ウマイヤ朝の君主もカリフの称号をもちいたので、3人のカリフが対立する分裂状態となった。さらに、ブワイフ朝がアッバース朝の首都に入城し、カリフから大アミールに任命された。

E イスラーム世界の興亡

12

- 1 11世紀、トルコ人のトゥグリル=ベクが中央アジアから西進し、セルジューク朝をひらいた。彼が、1055年、ブワイフ朝を倒して首都に入城すると、アッバース朝カリフはスルタンの称号をあたえた。
- 2 10世紀には、同じくトルコ系のイスラーム王朝であるカラハン朝がアフガニスタンに成立した。この王朝は、10世紀末から北インドへの侵入を開始した。
- 3 12世紀にはエジプトにアイユーブ朝がおこった。建国者サラディンは、1171年にファーティマ朝をほろぼし、シーア派の信仰を回復した。また、彼は、1187年に十字軍からイェルサレムを奪回した。
- 4 アイユーブ朝はトルコ人奴隸によるマムルーク軍団を組織していた。しかし、この軍団が強力となりクーデタをおこして、1250年、アイユーブ朝を倒し、エジプト・シリアを支配するマムルーク朝をたてた。

F 西方イスラーム世界の変化

13

- 1 北アフリカでは先住民ベルベル人が、11世紀半ば、急速にイスラーム化するとともに、ムラービト朝、ついでムワッヒド朝を建設した。ともにモロッコのマラケシュが首都である。
- 2 1076/77年のムラービト朝の攻撃によって、アフリカ西部のマリ王国は衰退した。これにより内陸アフリカにイスラーム教が浸透しはじめた。
- 3 このころイベリア半島では、キリスト教徒による国土回復運動(レコンキスタ)が活発であったので、両王朝は半島に進出して対抗したが、敗退した。
- 4 イベリア半島最後のイスラーム王朝はナスル朝(グラナダ王国)である。この王朝はスペイン王国に滅ぼされた。

G イスラームの学問と文化活動

14

- 1 イスラーム教徒の学問として最初に発達したものは、アラビア語の言語学と神学・法学であった。続いて、歴史学の分野が発達し、14世紀、歴史学者のイブン＝シーナーが『世界史序説』を著した。
- 2 イスラーム教徒の学問が飛躍的に発達したのは、9世紀初頭、ギリシア語文献がアラビア語に翻訳されてからである。詩集『ルバイヤート』の著者でもある科学者ウマル＝ハイヤームは、数学や天文学にもすぐれ、正確な太陽暦の制定に参加した。
- 3 文学では、詩の分野が発達した。また、説話文学も多く書かれ、アラブ文学を代表する『アラビアン＝ナイト』が有名である。一方、旅の文学も盛んであり、イブン＝ルシュドは口述で『旅行記』を残した。
- 4 美術・工芸の分野では、繊細なミニアチュールが、また、装飾文様としてアラビア文字や唐草文を図案化したアラベスクが発達した。

次の Ⅲ ～ V の問題は「世界史(新)」および「世界史(旧)」の受験者に共通の問題です。いずれの受験者も解答してください。(解答番号は 15 ～ 41)

Ⅲ 下のA～Fは、ギリシア世界の形成と発展に関する見出しと、それに関する記述(1)と(2)から成り立っている。それぞれの記述の下線部の正誤を判断し、その組み合わせを次の解答群から選べ。(24点)

<解答群>

- ① (1) = 正 (2) = 正 ② (1) = 正 (2) = 誤
③ (1) = 誤 (2) = 正 ④ (1) = 誤 (2) = 誤

A ポリスの成立 15

- (1) ポリスとは、ギリシア各地で有力者を中心に諸集落が連合してできたものである。各ポリスはある程度独立しながらも、連合してギリシアという統一国家を形成していた。
- (2) ギリシア人たちは、所属するポリスは異なっても同一民族意識がつよく、自分たちと区別して、異民族をバルバロイとよんだ。

B ポリスの住民 16

- (1) ポリスの住民は、市民と奴隷とに分かれており、奴隷は人格を認められず、売買の対象となっていた。
- (2) 市民はさらに貴族と平民に分かれていた。貴族と平民の身分差は大きく、平民は貴族に従属しなければならなかった。

C 民主政のはじまり

17

- (1) 平民たちのなかには、交易により裕福になったことで武具を買って重装歩兵として参戦するものが多くなった。国防に果たす役割が大きくなった平民は、参政権を求めて貴族と対立することとなった。その調停者としてアテネにおいて改革を実行したのがソロンである。
- (2) 平民の不满を利用して、多くのポリスで僭主政治がおこなわれるようになった。僭主政治の崩壊後にアテネの指導者となって諸改革をおこない、アテネの民主政の基礎を確立したのがペイシストラトスである。

D ペルシア戦争

18

- (1) ペルシア戦争のきっかけは、セレウコス朝ペルシアの支配に対して、ミレトスを中心としたギリシア人諸都市がおこした反乱である。反乱を支援するアテネに、ペルシアは三度遠征したが、三度とも失敗した。
- (2) ペルシア戦争後、アテネを中心にヘラス同盟が結成された。これはペルシアの再侵攻にそなえたもので、エーゲ海周辺の多くのポリスが加盟し、強大な海軍力をもつアテネの支配力が高まった。

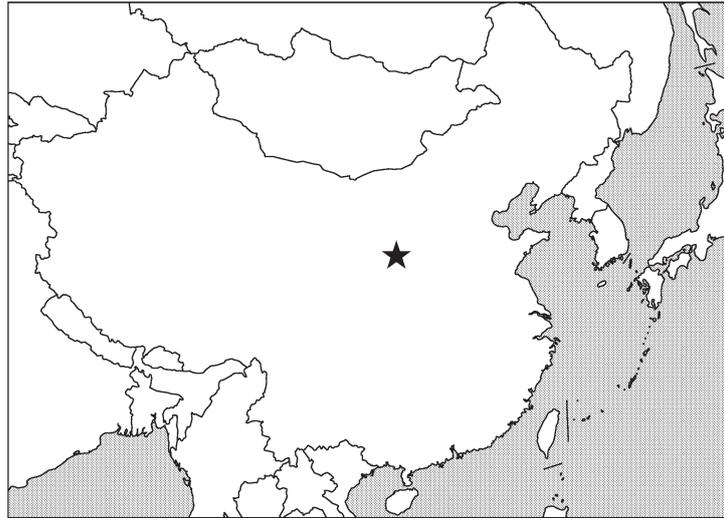
E アテネ民主政の完成

19

- (1) 軍艦の漕ぎ手として参戦した無産市民の発言力が高まり、前5世紀半ば頃、ペリクレスの指導のもと、18歳以上の市民全員が参加する直接民主政が完成した。しかし、「市民」に、奴隷、在留外人、女性は含まれなかった。
- (2) 国家の政策は、成年男性市民で構成される民会で多数決によって決定され、一般市民のうち抽選で選ばれた役人が行政を担当した。

- (1) アテネとスパルタの対立はペロポネソス戦争を引き起こした。前4世紀になってもポリス間の抗争は続き、疫病の流行もあいまって、ポリスでは人口が減り、貧富の差が広がったポリス社会は内部から変質し、弱体化していった。
- (2) 前4世紀後半、テーベ・アテネの連合軍は、カイロネイアの戦いでアレクサンドロス大王に敗れ、スパルタをのぞく全ギリシアはマケドニアに支配されることとなった。

IV 次の地図中に★で示した現在の中国西安市一帯は、古くから多くの王朝が都をおいた場所である。下の1～6の時点において、その地域を支配していた王朝を、次ページの解答群Aから選べ。さらに、それらの王朝の初代皇帝を、次ページの解答群Bから選べ。ただし、該当する王朝や皇帝が選択肢にない場合は①をマークせよ。両方とも正解のときにのみ点が与えられる。(24点)



- | | | |
|----------|--------------------------------------|--|
| 1 前1000年 | 王朝 = <input type="text" value="21"/> | , 皇帝 = <input type="text" value="22"/> |
| 2 前220年 | 王朝 = <input type="text" value="23"/> | , 皇帝 = <input type="text" value="24"/> |
| 3 前200年 | 王朝 = <input type="text" value="25"/> | , 皇帝 = <input type="text" value="26"/> |
| 4 270年 | 王朝 = <input type="text" value="27"/> | , 皇帝 = <input type="text" value="28"/> |
| 5 590年 | 王朝 = <input type="text" value="29"/> | , 皇帝 = <input type="text" value="30"/> |
| 6 620年 | 王朝 = <input type="text" value="31"/> | , 皇帝 = <input type="text" value="32"/> |

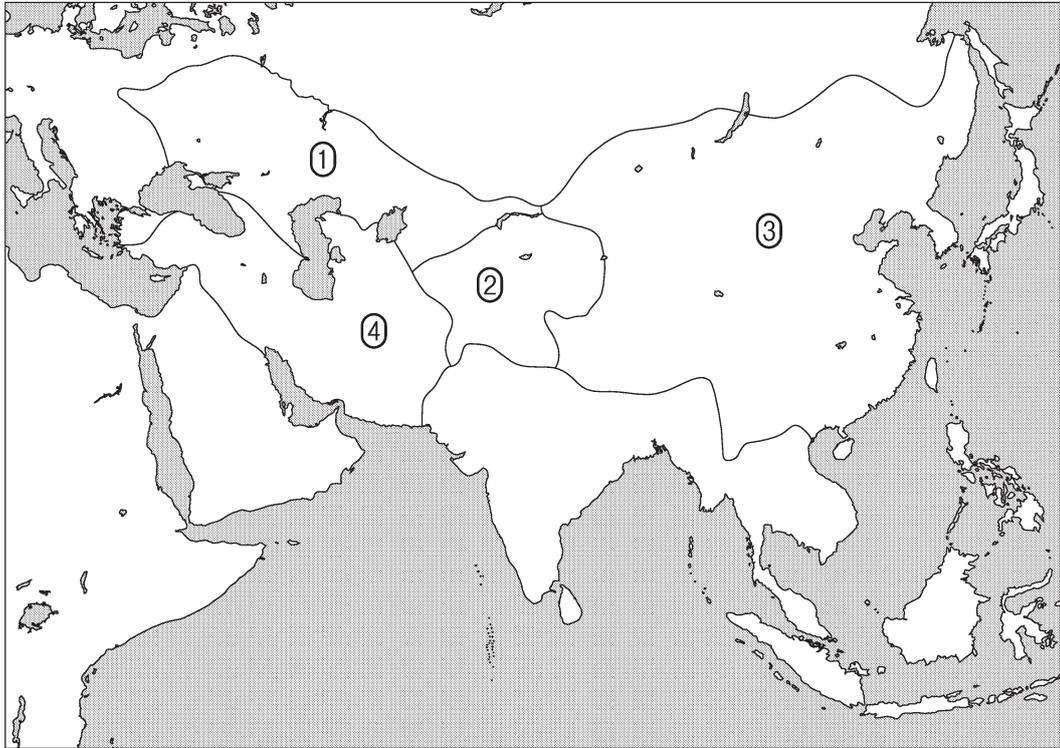
<解答群A>

- ① 漢 ② 後梁 ③ 秦 ④ 隋 ⑤ 西周
⑥ 西晉 ⑦ 唐 ⑧ 東周 ⑨ 東晉

<解答群B>

- ① 始皇帝 ② 司馬睿 ③ 司馬炎 ④ 朱全忠 ⑤ 楊堅
⑥ 煬帝 ⑦ 李淵 ⑧ 李世民 ⑨ 劉邦

V 次の地図はモンゴル帝国の最大領域を描いたものである。これを見て、下の問い(問1～問6)に答えよ。(24点)



<解答群>

- | | | |
|--------------|--------------|--------|
| ① オゴデイ(オゴタイ) | ② クビライ(フビライ) | ③ グユク |
| ④ ジョチ | ⑤ チャガタイ | ⑥ テムジン |
| ⑦ バトゥ | ⑧ フレグ(フラグ) | ⑨ モンケ |

問1 1206年のクリルタイでチンギス=カン(ハン)として即位し、モンゴル系・トルコ系の諸部族を統一して大モンゴル国を建てた人物を、上の解答群から選べ。

33

問2 チンギス=カン(ハン)が行った事績として正しくないものを、次の①～④のうちから選べ。 34

- ① 軍事・行政組織として、配下の遊牧民を1000戸単位として編成した千戸制をしいた。
- ② みずからの親衛隊を含めて強力な騎馬軍団を整えた。
- ③ 金を減ぼした。
- ④ 西夏を減ぼした。

問3 アッバース朝を減ぼしてイル=ハン国を建てた人物を、上の解答群から選べ。また、その地域を、上の地図の①～④のうちから選べ。両方とも正解の時のみ点が与えられる。 人物 = 35 , 地域 = 36

問4 西進してロシアや東ヨーロッパを制圧し、キプチャク=ハン国を建てた人物を、上の解答群から選べ。また、その地域を、上の地図の①～④のうちから選べ。両方とも正解の時のみ点が与えられる。

人物 = 37 , 地域 = 38

問5 南宋を減ぼし、中国全土を支配した人物を、上の解答群から選べ。また、彼は、モンゴル高原から華北・チベット・雲南・朝鮮半島におよぶ地域を勢力基盤とし、1271年に国名を元と定めた。元の都を、次の①～④のうちから選べ。 人物 = 39 , 都 = 40

- ① カラコルム ② 成都 ③ 大都 ④ 重慶

問6 モンゴル史をはじめとするユーラシア世界史『集史』をペルシア語で著した人物を、次の①～④のうちから選べ。 41

- ① イブン=ルシュド ② イブン=バットウータ
- ③ イブン=ハルドゥーン ④ ラシード=アッディーン